

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 菅野 剛

研究課題		格差と人々のつながりに関する実証的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>統計学、データ分析、プログラミングといったデータサイエンスにおける新たな動向について情報収集を行い、分析手法について研究を進める。分析を適用する具体的対象として、社会構造と人々の社会関係に注目し、格差や社会的ネットワークについて実証的・計量社会的な研究を勧める。データ分析において、多様な手法が様々な分野で発達し、互いに影響を及ぼしあっている。記述的なデータ分析を進めるとともに、高度な分析手法の適用を試み、様々な視点からデータの特徴を、より正確に把握するように努める。</p>
	研究の結果	<p>過去に実施した地域調査のハンドリング、インターネットなどを利用・活用したデータ収集と調査の実施を行った。これらを有効活用できるようにして、データ分析を行い、変数間の相関構造について様々な分析手法を適用した。一つのデータに依存することなく、いくつかの種類 of データを用いることで、多様な視点からの分析を心がけた。</p> <p>データの収集、加工、分析の一連のプロセスを何度も行う中で、より効率的な処理を行うための工夫が切実な課題となった。具体的には、Google クラウド環境、Google Colaboratory と Python の利用などを行い、一定の成果と今後の展望を得ることが出来た。また、分析に結果についても、格差や人々のつながりについて、数値に基づく計量的な知見を得た。</p> <p>調査環境、情報処理技術の変化、オープンソースの発展など、調査研究を取り巻く環境は大きく変わりつつある。</p>
	研究の考察・反省	<p>リベラルアーツにおいては、価値や倫理の表明が重要であるとともに、事実に基づく実証と知見も重要である。好き嫌いや印象に過度に依存することなく、可能な範囲で恣意性を排し、反証可能性を確保し、作業や経験を追体験・共有できるよう、再現可能なプロセスを心がけるようつとめたい。</p> <p>フィールドとの接点を伴う社会調査、数式理解が必要な統計学、混沌した構造を探るデータ分析、情報処理やプログラミング、社会科学と隣接諸領域それぞれにおいて大きな発展が見られ、社会調査やデータ分析のいわばフルスタック・エンジニアとしてこれら全てをカバーすることはますます難しくなっている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>(1) 研究期間中に成果を出すことができなかった理由 急速に発展しているデータ分析の手法や、プログラミング言語の理解を深めつつ、慎重に研究を進めているため。</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		<p>(2) 次年度以降の成果発表の予定 上記の事柄についての研究成果を現在取りまとめ中である。</p>